きよす道

きよす道とは、戦国時代から江戸時代に入るまで尾張の中心地であった清須から小牧へと通じる道である。その道筋は、藤島から薬師寺を通り西春の徳重米野に入り、西之保,下之郷から朝日を通り清須へと続いていた。

その後、尾張の中心が名古屋に移ると清須への道も重要度が変わってきたのである。江戸時代の道標などにも「なごや道」と記されたものが市内各地に見られる。また、小牧に多くの新田ができ、その土壌を肥やすために海部地方から多くの藁灰を運んだ灰取街道が清須道と重なり、そのルートも木津用水の堤防を通るなどさまざまに変化してきた。

今回取り上げる清須道は、中町にある「清須道起点」の標柱、市民病院北の道標の「左きよす道」、さらに清須道は旧城下町を通っていたという元町地区に残る伝承があることことから、小牧宿ができた当時の清須道を紹介する。

名古屋電気鉄道岩倉線

現在、小牧駅から岩倉駅へと続くバス路線の道路は、以前、小牧と岩倉を結ぶ電車が走っていた道である。大正9年(1920)に開通し昭和39年(1964)に廃止されるまで人々の大切な足となっていた。

開通当初の小牧駅は、保健センターの北東200mのちょうど常普請から小牧の段丘面に上がりきったところにあったが、名鉄上飯田線の小牧駅のところに移った。その当時は「新小牧駅」であった。線路は上飯田線から離れると今の小牧自動車学校の前に沿ってゆるやかに西に曲がり、旧県道や上街道のところは切り通しになっていた。岩倉までの駅は、西小牧駅、小針駅、小木駅、中市場駅であった。当時は、岩倉駅から西に、一宮まで通じていた。昭和39年の小牧岩倉線の廃止に伴うバス化により、少し遅れて一宮線も廃止となった。

岩倉から来た電車が小木の段丘に差しかかると、勾配がきつかったため電圧が下がり車内照明が一時暗くなったようだ。また、小木の船橋医院がよく繁昌し、患者が小木駅まで並んだという逸話もあったそうだ。

昭和35年　2万5000分の1地形図小牧より

小針駅

新小牧駅

名古屋鉄道HPより

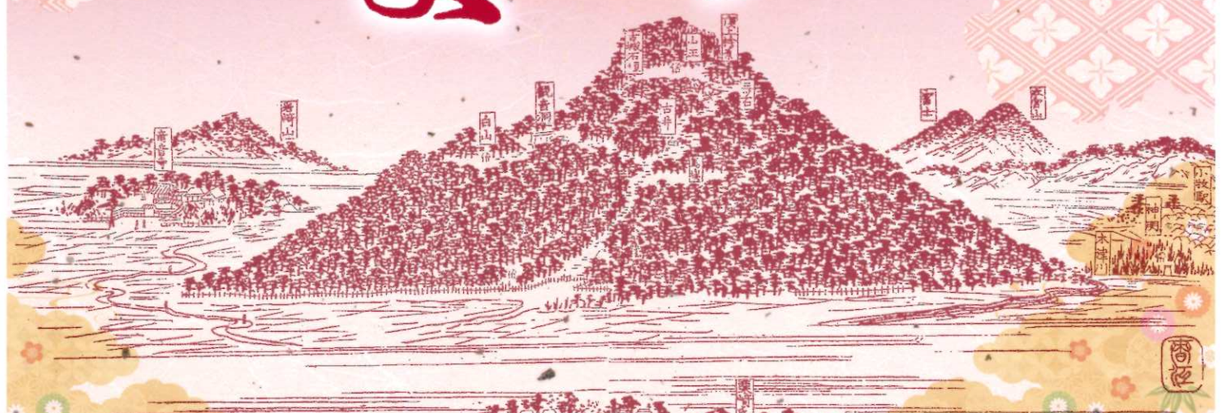
編集／愛知文教大学地域連携センター
小牧市文化財地図作成委員会
委　員：加藤憲吾、酒向道夫、篠田徹 、西川菊次郎、水野弘
事務局：宮崎貴光
発 行／小牧市教育委員会　小牧市堀の内三丁目1番地

小牧の旧道
ガイドマップ
きよすみち

令和5年3月30日

Komaki
キミと一緒に、育っていきたい。

小牧の旧道
―ガイドマップ―
きよすみち


[尾張名所図会より]

小牧市教育委員会

小木古墳群

（市HPより）

小木古墳群は、小木二丁目から三丁目にかけて分布する市内では最大の古墳群です。境川や巾下川の流域の低湿地を望む台地上に築かれています。北から、甲屋敷古墳、宇都宮神社古墳、浄音寺古墳と並んでいるが、滅失した天王山古墳、甲屋敷2号墳など多数の古墳があったことが知られている。

時期については、古墳の形態や出土品などから3世紀から4世紀ごろ築かれた前期古墳群と考えられる。犬山市の東之宮古墳に次いで築かれた古墳群であり、市内でもいちばん古いといわれ、すでに4世紀には小木周辺が有力な豪族の拠点であったことがうかがえる。

小木古墳群分布図

古墳の形態としては、犬山の東之宮古墳と同時期であることから前方後方墳を中心としたものと思われる。

宇都宮神社古墳からは、三角縁獣文帯三神三獣鏡が出土しており県の有形文化財に指定されている。同じ鋳型で作られた鏡が佐賀県と岐阜県で発見されている。

三角縁獣文帯
三神三獣鏡

天王山古墳も甲屋敷2号古墳も名鉄岩倉線の敷設により消滅した

以前、小木古墳群の中にあった天王山古墳、甲屋敷2号墳は、大正9年の名鉄岩倉線の開通とともに消滅した。小木の段丘部から西側の巾下川流域の沖積部へと続くところは、かなりの段差があるため、電車の線路をゆるやかな傾斜で敷設するにはかなり多くの土砂が必要であった。これに使われたのが、当時小木北部にあった天王山古墳と、ちょうど線路の敷設路上にあった甲屋敷2号墳であった。

現在、小木二丁目にある御嶽信仰の石仏群は、そのとき天王山古墳（当時は狐塚と呼んでいた）から移設したものである。

小木2丁目に移された御嶽信仰石仏群

昔から水害に悩まされてきた藤島地区

藤島地区は、小牧市の南西部に位置し市内でいちばん低いところにあり、巾下川流域に降った雨が集められ五条川に流入するところである。藤島は巾下川流域の沖積地にあるもの、その名のとおり周りの土地より高いところにあり、すぐ北側に広い水田が広がっていたため、この頃は大きな水害に遭うことは少なかった。

ところが、開発により多くの住宅地が建設されたため、それまで天然の貯水池であった水田が減少したため、水があふれることにより何年かに一度、床上・床下浸水になることがあった。それは、藤島地区に集まった水が五条川に流入するはずが、五条川の方が広い流域の水を集めているため、合流地点で水が逆流し、排水できず浸水被害が出たのである。

そこで住民の要望で造られたのが藤島ポンプ場である。大雨の際に五条川からの水が逆流しないように水門で閉め、藤島地区に集まった水をポンプで汲み上げて五条川に流すようにしたのである。これにより浸水被害は減少したが、それでも気候変動によるゲリラ豪雨なども、水害の心配は絶えなかった。

その心配解消のため、近年、賢林寺のすぐ西側に「さかしまかわ広場」が造られた。

地下に雨水調整池があり、広場の地上部は大雨の時に駐車場になるようにできている。

藤島ポンプ場

「さかしまかわ広場」の命名について

尾張平野の北部に位置するこの一帯は、北東から南西に低くなる地形であり川の流れも地形と同じように水が流れています。

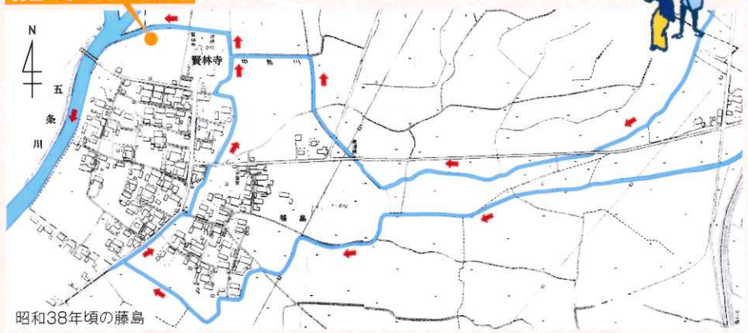
しかし、藤島地区の居屋敷を南北に横断する水路は南から北へ流れており通常と異なるので古くから「さかしまかわ」といわれていました。

北里村誌（昭和11年9月20日発行）第十三章　風俗習慣　第三節　伝説によると、「掘っても出ない金の寶物」に・・・・賢林寺に安置する十一面観世音の御開帳の當時、藤島の鎮守境内裏、さかしま川の流るるあたりより・・・・と記されています。

古くから親しんだ名称を風化させたくない願いを込めて命名しました。

――「さかしまかわ広場」説明板より

現在のさかしまかわ広場



昭和38年頃の藤島

賢林寺の木造十一面観音坐像が国の重要文化財に

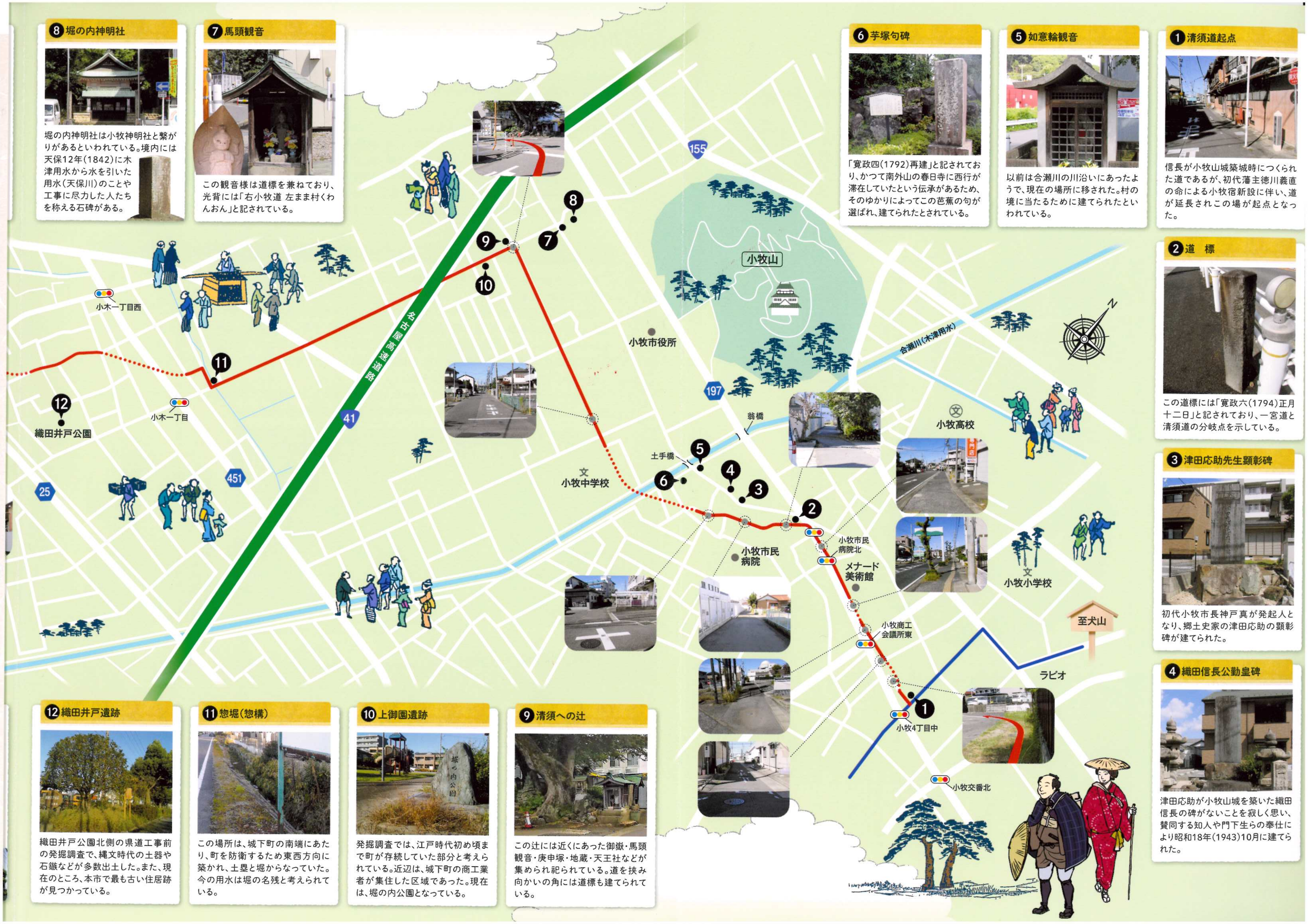
藤島山賢林寺の本尊である木造十一面観音坐像が、令和2年に国の重要文化財に指定されました。平安時代前期のもので、榧材の一木造り、保存状態もよいもので、立像でなく坐像であることも非常に貴重である。

また、本尊の2体の脇侍像は市指定の有形文化財であり、大きい方が鎌倉時代前期、小さい方が平安時代後期の作と考えられる。

木造十一面観音坐像

脇侍像（小）

脇侍像（大）



1 清須道起点

信長が小牧山城築城時につくられた道であるが、初代藩主徳川義直の命による小牧宿新設に伴い、道が延長されこの場が起点となった。

2 道　標

この道標には「寛政六(1794)正月十二日」と記されており、一宮道と清須道の分岐点を示している。

3 津田応助先生顕彰碑

初代小牧市長神戸真が発起人となり、郷土史家の津田応助の顕彰碑が建てられた。

4 織田信長公勤皇碑

津田応助が小牧山城を築いた織田信長の碑がないことを寂しく思い、賛同する知人や門下生らの奉仕により昭和18年(1943)10月に建てられた。

5 如意輪観音

以前は合瀬川の川沿いにあったようで、現在の場所に移された。村の境に当たるために建てられたといわれている。

6 芋塚句碑

「寛政四(1792)再建」と記されており、かつて南外山の春日寺に西行が滞在していたという伝承があるため、そのゆかりによってこの芭蕉の句が選ばれ、建てられたとされている。

7 馬頭観音

この観音様は道標を兼ねており、光背には「右小牧道 左まま村くわんおん」と記されている。

8 堀の内神明社

堀の内神明社は小牧神明社と繋がりがあるといわれている。境内には天保12年(1842)に木津用水から水を引いた用水(天保川)のことや工事に尽力した人たちを称える石碑がある。

9 清須への辻

この辻には近くにあった御嶽・馬頭観音・庚申塚・地蔵・天王社などが集められ祀られている。道を挟み向かいの角には道標も建てられている。

10 上御園遺跡

発掘調査では、江戸時代初め頃まで町が存続していた部分と考えられている。近辺は、城下町の商工業者が集住した区域であった。現在は、堀の内公園となっている。

11 惣堀(惣構)

この場所は、城下町の南端にあたり、町を防衛するため東西方向に築かれ、土塁と堀からなっていた。今の用水は堀の名残と考えられている。

12 織田井戸遺跡

織田井戸公園北側の県道工事前の発掘調査で、縄文時代の土器や石鏃などが多数出土した。また、現在のところ、本市で最も古い住居跡が見つかっている。

小牧の旧道 ガイドマップ きよすみち

24 賢林寺

御嶽信仰石碑集合群

建永元年(1206)創建とされる天台宗の古刹。本堂は平成23年(2011)に山門と共に改築された。境内には稲荷堂や三十三所観音、御嶽信仰石造群、句碑などがある。

25 法華堂

賢林寺門前にある法華堂。石碑に「平成十二年(2000)八月建之法華藤島講中一同」とある。日蓮宗の地元有志により建立された。

30 常夜灯(太神宮・秋葉山)

街道にあった常夜灯の一つ。辛うじて「太神宮」「秋葉山　□化十癸酉(1813)二月」の文字が見える。これを過ぎれば北名古屋市に入る。街道最後の文化財。

23 神明社

賢林寺に隣接した神社で、一対の常夜灯の後ろには石の鳥居が見える。さらに進むと幣殿と本殿がある。創建時不祥だが、元亀年間(1570～73)に再興されたと言われる。

22 日吉神社南石仏

4体ある石仏のうち、如意輪観音には「右ハ藤志まかん音道」「文化十酉年(1813)念仏同行」とある。

21 日吉神社

宇都宮神社の末社。他に秋葉社と津島社がある。ご神木は、日吉神社のクスノキ(市天然記念物)として知られている。すぐ東に宇都宮神社の神門がある。

16 宇都宮神社

永正元年(1504)に織田氏が越前から移住した時下野の宇都宮を勧請した。本殿を含む小山一体が宇都宮神社古墳(県史)であり、境内には在原業平公歌碑などがある。

15 眞通寺番神堂

上法華嶋講中により明治元年(1868)、法華経行者守護の善神として三十番神を勧請し、信仰の道場とした。

14 甲屋敷古墳

3～4世紀頃に築かれた市内最大の小木古墳群の一つである。巾下川を望む台地の上に築かれている。

13 集合石仏群

名鉄岩倉線敷設の際、北東の狐塚と呼ばれた地にあった山を削り、石仏はこの地に移設された。小木の路傍の石仏も移され祀られた。

26～29

26 地蔵

27 聖観音

28 地蔵

29 地蔵

賢林寺から南に続く道沿いには石仏の祠が見られる。いずれも地元住民の篤志で建立され維持されている。

20 薬王寺

浄土宗。浄音寺の末庵。当初は、薬師堂と称されていたが、昭和17年(1942)薬王寺と改称された。本尊は、薬師瑠璃光如来。耳の病に御利益があると言われている。

19 眞通寺

日蓮宗。明応2年(1493)日建上人開基。天正12年(1584)鬼蔵庵と号した。享和元年(1801)犬山城主6代成瀬正典の心願成就所として鬼子母神を祀る。明治に入り、眞通寺に改めた。

18 世尊寺

曹洞宗。寛政元年(1789)天台宗から改宗して今の寺号となった。織田信長の傅役(もりやく)だった平手政秀の菩提を弔うため建立された政秀寺の跡地と言われている。

17 浄音寺(浄音寺古墳)

浄土宗。元亀3年(1572)に安誉昌願上人により開山。名古屋の豪商関戸家初代当主が建立。敷地内の小山が浄音寺古墳。境内には三十三所観音・六地蔵がある。

浄音寺古墳